

はらむら 議会だより

第103号

平成22年11月10日発行
発行／長野県諏訪郡
原村議会
編集／議会広報編集委員会
TEL 0266-79-2111
FAX 0266-79-7951
☎ 391-0192



宇宙~~~~無限の彼方へ

H21年度決算を審査

■平成22年■
9月
定例会

- 9月定例会…………… 2
- 委員会報告…………… 5
- 一般質問…………… 7
- 議会報告懇談会…………… 11
- 議会日誌…………… 12

9月定例会

平成22年第3回定例会は9月1日から17日まで、会期17日間で開催された。

「平成21年度一般会計決算の認定」など村長提出議案等20件を審議した。委員会での審査の内容は委員長報告のとおりです。

◎平成21年度一般会計決算の認定

(内容) 一般会計決算の状況は、歳入総額45億1千35万4千円に対して歳出総額41億1千783万円となり、差引差額は3億9千252万4千円であった。

☆反対討論

前年度との比較では、歳入では6億962万2千円増(+15.6%)、歳出では7億5千415万5千円増(+22.4%)となり、国の地域活性化・経済危機対策臨時交付金事業等により歳入歳出とも大幅な増加となった。

村民一人当たりでは、歳入が57万3千909円、歳出が52万3千964円となった。

翌年度への繰越金は1

千985万2千円で、実質収支は3億7千267万2千円の黒字。単年度収支は9千403万円の赤字となった。

一方、財政調整基金を加減した実質単年度収支額は936万5千円の黒字となった。

☆賛成討論

行革により職員数が減らされ過ぎて、村民の相談にのる時間的余裕が取れない状況である。

今回の審査で、職員が内容を理解していない場面が多々あった。行政として議案の中身を捉えておらず、余りにも不十分すぎた。

☆賛成討論

農地有効利用支援は、村民に歓迎された。職員が

頑張つて事業を実施した。

◎諏訪南行政事務組合規約変更

(内容) 灰溶融炉施設事業の取り止めにより、規約の「灰溶融炉施設の設置、管理及び運営に関する事務」を削除する。

☆賛成討論

灰溶融炉はコストが掛り、事故が多発している。廃止は正しい方向だ。

◎平成21年度後期高齢者医療特別会計決算の認定

(内容) 対象人員(平均)1千96人、医療費は一人当たり62万5千60円である。県平均74万5千152円を下回っている。

☆反対討論

保険料の滞納が、でている。

国民年金では、入院・通院費用の負担が重い。

☆賛成討論

現実の制度として、老人医療を担っているのを、認定する。

◎平成22年度一般会計補正

予算(第2号) 専決処分

(内容) 7月1日の集中豪雨による災害復旧費として、歳入歳出それぞれ1千613万円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ36億2千979万円とするもの。

☆反対討論

予算は、住民の生活を守るために一日でも早く実施する必要がある。

長側が議会を開く時間的余裕がなかったのか。手続きのあり方に問題がある。

☆賛成討論

今回は専決処分でよい。今後は議会へ報告、または臨時議会を開催するのかが検討すべき。

◎長野県地方税滞納整理機構設立に関する協議について

(内容) 長野県地方税滞納整理機構(以下「広域連合」という)は、長野県及び県下全市町村をもつて構成する。広域連合は、地方税及び国民健康保険税の滞納で、徴収移

管を行った事案に係る滞納処分及びこれに関する事務を行う。(案では、市町村の基本負担金は5万円、処理件数割額は1件当たり16万6千円となっている。)

☆反対討論

納税は取る側と納める側の信頼関係に基づいて成り立っている。行政事務に対する不満で納税しない人もいる。

他県の機構の徴収率は、スタート時の30%位から年々低下し、7年目に9%まで低下。悪質な件にとどめるべきであり、詳細の研究・検討が必要である。

予算案の中で、処理件数をノルマとするのか。安易に処理するのは望ましくない。

☆賛成討論

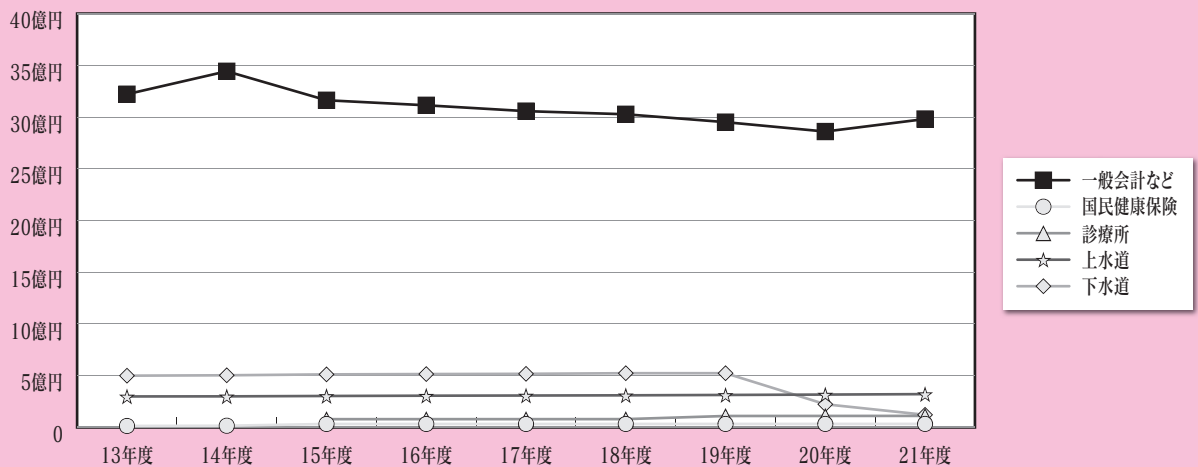
職員の努力で原村の徴収率は高い水準である。職員体制の問題で、難しい事案については広域連合に移管する事に賛成する。

村の財政(預金と借金)の推移

年度別基金(預金)の推移

(単位:万円)

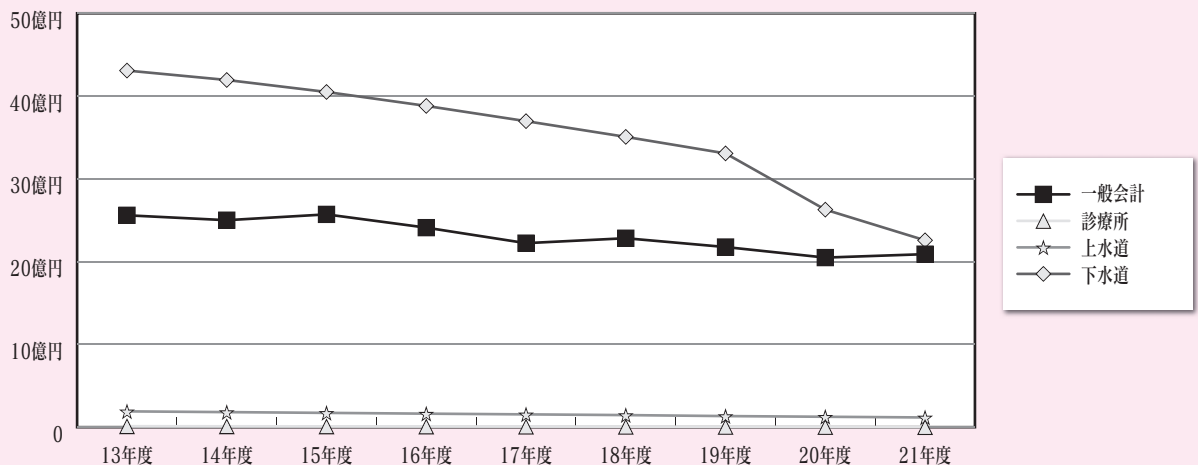
会計名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
一般会計など	322,057	344,228	316,226	311,353	305,699	302,669	295,061	285,982	298,077
国民健康保険	1,455	1,669	3,368	3,372	3,377	3,386	3,401	3,418	3,430
診療所			8,000	8,011	8,022	8,044	11,080	11,132	11,171
上水道	29,967	30,056	30,419	30,690	30,858	31,052	31,412	31,781	32,206
下水道	50,037	50,422	51,293	51,599	51,831	52,427	52,427	22,427	12,227



村債残高の推移

(単位:万円)

区分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
一般会計	255,973	250,054	257,074	241,052	222,308	228,263	217,636	204,878	209,012
診療所	1,179	1,085	983	874	755	627	488	338	176
上水道	19,114	18,202	17,282	16,339	15,476	14,603	13,406	12,585	11,745
下水道	430,834	419,442	404,958	388,112	369,704	350,716	330,736	262,802	225,744
計	707,100	688,783	680,297	646,377	608,243	594,209	562,266	480,603	446,677



委員会報告

総務産業常任委員会

委員長 菊池敏郎

今定例議会では、村長から提出された補正予算3件、決算認定3件、税金の滞納整理目的の広域連合設立についてと今年度予算の執行に関する事務調査を行った。

◎一般会計補正予算専決処分

・7月1日の集中豪雨被害の災害復旧費用が中心であった。

☆審議では、災害復旧工事における受益者負担（地元負担）の「あるなし」の基準がいまいち指摘された。特に、河川の頭首工の工事では受益者が複数で、個人資産の増加ではない時、ゼロとすべきと発言があった。

◎一般会計補正予算

・災害復旧の追加、庁舎改修の増額、村民登山事故補償金、中央高原イルミ

ネーション補助金等であった。

・「縦の木荘」の緊急放送設備の故障は、落雷によるとされ、保険金対応となっている。

☆年1度の定期点検のみで自主点検されていないのは問題ありと指摘された。

☆中央高原美術館下の「大イルミネーション」は、取り外しができず4年間で点灯しなくなった。今後の検討も必要との意見があった。

◎21年度一般会計決算

・歳入では、国の交付金が増え税収の割合が減った。たばこ税及び入湯税も減る傾向にある。

・職員の配置が仕事量に比較し少なく臨時職員等と正規職とすると44人（現状の職員数は、118人）に該当すると報告された。

その結果、各部署に問題があると報告された。

・村が誘致した、国土交通省等主催の「地域づくり交流会」に村予算は使われないとされていたが、10万円のほか、職員延べ96人（平均賃金換算で47万円余）が休日出勤し、平日交替で休んでいた。

・農業振興策（連作障害対策の土壌消毒剤、高温障害対策の日除け資材等の購入補助）は、村民に十分認識されずJAに偏る傾向があった。

・農作物の安値対策事業は、原村農業に大きな役割を果たしてきたにも関わらず役場で詳しく理解していない実態が明らかとなった。

☆農地有効利用支援整備事業（昨年実施された、農道舗装、水田暗渠排水工事などだが、1年で廃止となった）の復活を望むとの意見があった。

☆中小商工業者の実態をつかむ努力が始まったが、さらに実態に合った施策展開に向けて努力するよ

う要望された。

◎有線放送特別会計決算

・接続可能世帯に対し音声告知放送65%、サラダチヤンネル53%との実態が明らかとなった。

◎農業者労働災害特別会計決算

・加入者が減る傾向について議論された。

◎地方税滞納整理機構設立について

・県と市町村で「大口徴収困難者」を対象とする徴収機構を設立するものである。原村では村税と国保税を対象とし年間4人分の徴収依頼の計画である。

審議では、滞納者の実態について報告された。

事務調査報告

◎鉢巻き道路から2km位上に計画されている「中央高原草原化事業」（今年100万円で9千㎡伐採し、来年度200万円投入し草原

化をめざすもの）は、予定場所や今後の見通しなどを検討するため予算執行は再検討すべきと全員一致で本会議に報告した。

◎冷害試験地に今年4月から研究員が常駐しなくなったのは問題であり、復活を要求すべきと確認された。

◎TVのデジタル移行後のサラダチヤンネル等の在り方について住民から意見を聞くべきと要求した。

社会文教常任委員会

委員長 小平 雅彦

事務調査報告

◎豪雨災害復旧状況

・弓振川（大久保）、前沢川（上里）護岸・路盤が流された。

・村道7009号線（チロリン村南）、村道7027号線（上里地区）、砂利道の路面が大規模に流されたもの。

◎小、中学校改修状況

・中学校廊下の天井張替天井が高く明るい環境となった。

・小、中学校のトイレ改修、洋式化は好評。太陽光発電施設（発電状態表示）。

☆動の推進が必要。
☆ごみ処理計画にあるリサイクルセンターは、住民懇談会等で、十分な検討が必要。

☆収入が下がった場合の医療費の窓口負担軽減制度について早期対応を進めるべきである。等の意見、要望が出された。

下水道条例の改正、22年度会計補正予算、21年度会計決算等議案12件、陳情1件を審査した。

また、7月1日豪雨災害にともなう、河川、道路の被災及び復旧状況、学校施設の改修状況等について事務調査を実施した。

◎21年度一般会計決算

・地域福祉計画に基づく災害時住民支え合いマップが新たに4地区で策定された。

◎22年度原村一般会計補正予算

・小規模特養（さくらの併設）建設補助。
・災害による道路橋梁、河川復旧費の増額等。

☆今回の専決処分については、臨時議会を開催し審議するべきである。との指摘があった。

・就学前児童の言葉に関する悩みについて、相談等が行われた。

◎22年度国民健康保険特別会計補正予算

・特定検診受診対策アンケート等健康指導事業を行うもの。

☆未受診者対策等保健指導

☆次年度中学入学予定者は78名である。中一ギャップの解消めざし、30人学級とすべきである。

☆中学校の改修においては、階段、廊下等木質化とすべきである。との意見、要望が出された。

◎21年度水道会計決算

・第2水源の老朽化にともない第3、第4水源を含めた水源対策が必要。

◎21年度下水道決算

・料金改定の検討が必要との説明があった。

◎21年度国民健康保険特別会計決算

・病類統計では、高血圧性疾患、糖尿病、統合失調症、等が上位を占めている。

☆アレルギー防止策として、外来雑草除去等の広報活

☆「経営健全化計画、料金改定計画等村民に丁寧な説明が必要」との意見があった。

☆長期的見地から保健事業の充実を進めてほしい。

☆保育所未満児棟が完成したが、希望者が多く余裕の無い状態で運営されている。

・橋梁の長寿命化計画策定のため、橋梁点検調査を実施した。

・子どもの読書活動を進めるため「原村子ども読書活動推進計画」を策定した。等の説明があった。

☆保育所給食室のドライ化等環境整備を早期に進めること。



豪雨災害による、 坪の端汐の復旧対策は

小平 雅彦

関係区と協議のうえ実施する

一般質問 村政を問う

〔緊急質問〕茅野市が発注した、ごみ処理施設の入札で談合疑惑が表面化した。経過と内容は。

「村長」ごみ焼却施設は、茅野市が建設し、2年後諏訪南事務組合に移管された。談合により、落札価格が不当であれば、原村も損害が出る。訴訟に関しては茅野市が責任を持つ。

〔質問〕風水害等自然災害の発生が増加している。自然災害の防止、発生時の対応策は。

「村長」河川、道路、農林関係事業等災害が起こらない事を目指している。災害警戒情報が発令された場合は職員や消防団の招集、関係機関との情報確認を行い、現地対応を迅速に実施する。

〔質問〕7月1日の豪雨災害では弓振川、坪の端汐の下流域チロリン村等に大きな災害が発生した。復旧、災害防止策をどのように進めるのか。

「村長」坪の端汐に豪雨が集中、下流に被害が発生した。坪の端汐3ヶ村、農場区等から対策要望が出ている。関係区とよく協議し対策を実施する。

〔質問〕環境保全型農業に対する施策展開は。

「村長」環境保全型農業は大事な視点である。農地・水・環境保全対策、減肥栽培、有機栽培産地確立、食の安全安心対策事業等に取組んでいる。

認証栽培等は普通栽培と分別出荷出来るよう農協に働きかけて行く。川上村をモデルに消費者に喜んで頂けるような産地育成を進めて行く。

〔その他の質問事項〕

○障害者の生活、社会参加、医療等支援施策について。

総合計画(後期)策定へ取り組みは

小林 庄三郎

住民に開かれた

計画づくりを目指す



たっては村内全地区での住民懇談会の開催、パブリックコメントの実施、原村振興計画審議会での審議を経て、住民の意見を計画に反映していく。

私としては教育関係に力を入れたいと考えている。

豊かな人間形成を目指した教育の推進を挙げて学校施設の整備充実と共に、教育内容・方法の改善充実が大切になる。

各方面の広い議論が必要となるが小中一貫教育について考えていただき、皆さんがよしとするならば、挑んでいきたい。

〔質問〕第4次原村総合計画後期基本計画策定で最も重要視すべきは、より多くの住民の意見を取り入れることである。

計画策定への取り組みは。「村長」5項目から成っている村民憲章の理念が第4次原村総合計画のバックボーンになっている。

前期計画に盛り込まれた119の施策については、検証シートを作り評価作業を進めている。

後期基本計画の策定に当

茅野市議会だより 第103号 平成27年7月10日発行

子宮頸がんワクチン接種に補助を

菊池敏郎



国の動向に追随する

〔質問〕 中学校を、木の床に変え安心できる校舎とすべきである。

〔教育委員長〕 教育委員会としても木の床が一番よいと考える。

〔質問〕 中学校の校舎の外に水洗便所を設置すべきである。

〔教育委員長〕 水洗トイレ設置の方向で、専門家とも相談する。

〔質問〕 テレビのデジタル化に対応し、サラダチャンネル視聴のため電波を交換する機械を全世帯に無償貸与すべきである。

〔村長〕 政府に行政チャンネルの配分を要望している。また、LCVに機械を貸し出してほしいと要請している。

〔質問〕 現時点でワクチン接種により70%予防できるのは、子宮頸がんのみである。もちろん副作用のこともあり、本人及び保護者の理解は当然だが、来年、中学生全員接種すれば、翌年からは1学年だけになる。全額村補助を実施すべきである。

〔村長〕 一人3回接種で4万5千円くらいかかる。仮に国が3分の1補助すれば、村では、450万円くらいかかる。

国、県の動向を見定めながら考える。

阿部知事の公約、小規模自治体への影響が大きい

小池啓男



あまり心配していない

〔質問〕 阿部知事の公約について考えを聞きたい。

一つは事業仕分け。「事業を県か、国か、市町村かに分けることによって予算のムダを省く」というものだ。

〔村長〕 事業仕分けに期待している。県の財政は大変で仕分けは必要ではないか。

〔質問〕 ムダを省くのであれば、住民の反対も多く、内水被害には効果が無いといわれる浅川ダムに400億円かけることに疑問がある。

国の事業仕分けでは、長野県が要望したシカやイノシシの防護柵の補助3億円を75%カットした。「防護柵は農業生産基盤そのもの」と県農政部も言っている。阿部氏は仕分けの「事務局次長」だった。

〔村長〕 分かり切ったことを聞いている。防護柵については見直しをしてもらいたい。阿部氏は事務局で仕分け人ではなかった。

〔質問〕 二つ目は信州独自の自治の検討という公約だ。

「市町村や広域連合への権限移譲、事務の共同処理を進める」としている。

国の29次地方制度調査会は、基礎自治体は一定規模でなければならぬという「1万人以下の自治体の窓口化構想」を引き継ぎ、広域連携と県による垂直補完を答申した。

知事の公約は、これを土台にした政策と考えられる。平成の合併は一段落したと言われているが、新たな小規模町村の切り捨て政策が進行している。きちんと意見を言うべきではないか。

〔村長〕 大して心配していない。共同事業を取り入れることは悪いことではない。また、調査会の答申が強制されることはないだろう。住民が自己を持って自治を行っていけば心配がない。国政レベルの事を村長と議論しても解決しない。

集落行動計画の支援は

木下 貞彦

地域は自分達で守り育てる



万円の補助がある。集落行動計画については、室内区が既に策定しており5集落が策定中である。計画には、5年の財政支援がある。いつでも相談して欲しい。

〔質問〕原村の鳥獣被害の実態と、対策は。猟友会との協力は。原村ブランド品の総合加工施設の必要は。〔課長〕狩猟免許者は28名で、鹿の個体数の調整、熊の檻設置等で協力してもらっている。

対策では、鹿の個体数調整、防護柵については補助事業もある。カラス捕獲檻設置をお願いする。〔課長〕加工施設については、利用者等がまとまれば補助を考える。

第103号 はらむら議会だより
〔質問〕集落行動計画で自主防災計画は、どこまでやればよいのか。集落行動計画策定への支援は。〔課長〕自主防災計画では安全・安心の住民生活の地域をめざし、平常時及び災害時の役割、防災訓練の計画を盛り込むことが大切。〔課長〕策定の手引きを作っている。

防災組織については宝くじ収益より200万円、村で100

立木の伐採で専門業者の

紹介ができないか

小池 利治

村で紹介することは可能



困る。

〔質問〕原山地域や別荘地等では道路や家の周りの立木が大きくなりすぎて、伐採をしたいが相談する所がわからないという。村で高所作業車を確保できないか。〔課長〕村では高所作業車は所有していない。環境維持事業の中で地域の要望があればリース車両を借り上げリース料は村で負担して貸し出すことはできる。また村で伐採業者を紹介することは可能。

〔質問〕道路、河川の法面の草刈等の管理は、最寄りの住民が行なっている。急傾斜地など個人では管理できないところもある。道路にはみ出し危険なところも見受けられる。管理してないため、土手もやわらかく崩れやすく危険である。村で管理すべきである。〔課長〕現場を調査して対応する。職員がすべて把握できないので、知らせしてほしい。草刈について、すべて村で行なうと「村でやるからいい」との風潮になるのは

〔質問〕昔は穴倉が地域の中にあり、若い人と年配の人達が一緒になってワラ仕事をした。空き家を利用して子どもや若者が年配の方の特技を教わる場所が必要。〔教育長〕地元の人がまず立ち上がらないとできない。村ではいろいろな講座をやっているの、受講者は地域でそれを普及して欲しい。原っこ広場も各地域でお年寄りが得意なことを教えるなどの方法でやったほうがいい。

鳥獣被害総額1,155万1,000円

	ニホンジカ	タヌキ キツネ ハクビシン クマ	イノシシ	スズメ カラス	その他
被害額 単位：円	699万6000	291万6000	8万5000	75万4000	80万
被害面積 単位：ha	1.96	0.8	0.5	5.1	全域

浄化槽排水の河川放流を認めていくのか

長谷川 寛



公共水域への放流もやむをえない

の放流もやむなしと考えている。

〔質問〕 事業用の汚水処理水を公共水域に放流するのはまた問題が大きいのではないか。

〔村長〕 計画の浄化槽の処理能力は厳しい原村の基準を十分にクリアしているし、維持管理については週一回行うようにしてもらおう。

〔質問〕 エコライン沿いの土地が、営業可能地として不動産情報に掲載されている。

都市計画法にもとづく、営業形態や土地利用のガイドラインを示すことを考えるべきではないか。

〔村長〕 都市計画が敷かれてないからガイドラインを示すことは難しい。

村民論議を高めて規制を

「村長」浄化槽の能力が上がって、県の指導では公共用水域での放流が原則になっている。
土壌発散は放流先が無い場合の措置になっている。
下水道の未普及地域では、狭小地などは公共水域へ

水田の暗渠排水事業の補助は

日達 徳吉

復活するよう要望して行く



〔質問〕 田の上畦からの湧水で、年間農作業が難行する所もある。又肥料や除草剤が効かない。暗渠排水工事には多額の経費が必要になる。(一枚行うのに約100万円) 良い方法はないか。

〔課長〕 農地有効利用支援整備事業が創設されたが、「事業仕分」で一年で廃止された。今後復活するよう要望したい。

〔質問〕 村単独で、補助金を出してはどうか。

〔村長〕 農業振興のためにも事業はしたいが予算が無いので検討していく。

〔質問〕 子宮頸ガン予防ワクチン接種費用を村で助成してはどうか。

〔村長〕 厚生労働省が来年度予算概算要求に盛り込んだ助成費が通るか、状況を

見ながら対応を決めたい。前向きに検討する。

〔質問〕 小学校庭の南バツクネットが傷んで大変危険である。直すべきだ。
〔課長〕 方法を検討し、修理する。

〔質問〕 中新田の深山グラウンド南側のバツクネットが小さくて各種大会を行う時に不便である。大きくしてほしい。フェンスバツクネットと左右のフェンスを大きくすべき。

〔課長〕 中新田区や教育委員会使用者等で意見を調整して対応したい。

出来るようにしたほうがいいのか考える必要がある。

（その他の質問事項）

○総合計画について、首長の任期とあわせて4年8年の計画にすべきではないか。

常設の「ひきこもり」相談所開設を

五味 武雄

実態調査をし、

状況に応じて対応したい



保健福祉課が担当する。

「課長」ひきこもり相談ではなく、精神保健相談会を年4回行っている。

（質問）内閣府の調査とは

別、徳島大学大学院で7年間の調査に基づき「ひきこもりの実態に関する調査報告書」が発表されている。それによると、ひきこもり本人の平均年齢は30.3歳で、初発年齢は19.6歳、ひきこもり期間は平均9.6年。また、52%の人が就労体験を持っている。

（質問）内閣府の調査とは別に、徳島大学大学院で7年間の調査に基づき「ひきこもりの実態に関する調査報告書」が発表されている。それによると、ひきこもり本人の平均年齢は30.3歳で、初発年齢は19.6歳、ひきこもり期間は平均9.6年。また、52%の人が就労体験を持っている。

（質問）「ひきこもり」とは、学校への登校や仕事・アルバイトといった外との交流を避け、6ヶ月以上以上わたつて家庭にとどまっている状態をいう。

（質問）ひきこもりの人数は全国で69万5千人。自分もひきこもりかと思つたことがある親和群は155万人と発表されている。

（質問）そこで、村内における実態を把握しているか。また担当部門はどこか。

（質問）原村の場合、地元で高校がなくて若者が中学を卒業してしまつて村との接点が非常に少なくなる傾向がある。小布施町ではこの4月より、社会参加が著しく困難

な状況にある概ね16歳から30歳位までの若者及びその家族を対象に、専門の相談員を常駐させ「若者のひきこもり対策事業」を行っている。

前にも一般質問で言ったが、若者の社会参加を促す就労支援やひきこもりに対する相談機関をぜひ作るべきと考えるが。

「課長」実態調査を行い、状況に応じて対応したい。

（その他の質問事項）

○河川の葦対策について。

議会報告懇談会

今回も各区長さんの協力により、予算議会終了後の定例になっている議会報告懇談会を開催することができた。

4月13日 南原公民館
4月15日 判ノ木公民館
で開催した。

議会より議員8人と議会事務局が出席した。総務産業委員長、社会文教委員長が、平成22年度一般会計予算と各予算、及び、21年度一般会計補正予算他各予算などについて、審議の内容を報告した。

懇談会で話題になった主なものは、下水道の整備について。耐震化対策、区内道路の整備やパトロールについて。工場の合併処理浄化槽への補助の要望などがありました。

担当課へ伝えたり、村への相談をすすめました。村に制度がないものについて、検討しています。



敬老会

今回の懇談会は、村長の小中一貫教育への考えをうけて、教育問題をテーマに10月に開催します。

議会日誌

- | | | |
|-----|-------------------------|--------------|
| 7月 | 2日 | 豪雨災害による委員会調査 |
| 5日 | 森林・林業・林産業活性化促進議員連盟 | |
| 8日 | 議会だより編集委員会 | |
| 11日 | 諏訪地区消防ポンプ操法・ラッパ吹奏大会 | |
| 13日 | 国民平和大行進 | |
| 14日 | 原村環境保全審議会 | |
| 16日 | 第3回原村議会臨時会 | |
| 17日 | 青少年健全育成協議会推進大会 | |
| 20日 | 国道20号改修・バイパス建設促進期成同盟会総会 | |
| 22日 | 原村鳥獣被害対策協議会総会 | |
| 23日 | 諏訪湖浄化対策連絡協議会総会 | |
| 26日 | 泉町村議員研修会 | |
| 8月 | 2日 | 全員協議会 |
| 5日 | 八ヶ岳西麓広域営農団地整備促進協議会 | |
| 10日 | 諏訪湖浄化議員連盟学習会 | |
| 11日 | 森林・林業・林産業活性化促進議員連盟 | |
| 17日 | 長野県連絡会議 | |
| 20日 | 諏訪地方議会議員交流会 | |
| 23日 | 諏訪中央病院組合議会 | |
| 24日 | 全員協議会 | |
| 27日 | 原村下水道審議会 | |
| 27日 | 原村国民健康保険運営協議会 | |
| 9月 | 1～17日 | 第3回原村議会定例会 |
| 4日 | 原村保育所運動会 | |
| 11日 | 原小学校運動会 | |
| 12日 | 八ヶ岳縄文の里マラソン大会 | |
| 17日 | 原中学校もみの木祭 | |

- | | |
|--------|-----------------------|
| 18日 | 原村消防団秋季訓練 |
| 20日 | 原村敬老会 |
| 22日 | NZプケコへ来村歓迎会 |
| 26日 | こひつじ幼稚園運動会 |
| 27日 | 南諏衛生施設組合議会 |
| 27日 | 諏訪南行政事務組合議会 |
| 28日 | 長野技能五輪2012諏訪地区委員会設立総会 |
| 28～29日 | 諏訪広域連合議会 |
| 29日 | 原村下水道審議会 |
| 30日 | 議会だより編集委員会 |

議長交際費

(平成22年1月より6月まで)

期日	金額	内容
1月15日	5,000円	諏訪消防協会新年会会費
4月22日	3,000円	日本禁煙友愛会原支部総会 祝儀

固定資産評価審査委員会 委員になりました

清水 麻男さん (柳沢)

任期 平成22年10月1日から

平成25年9月30日まで

編集後記

鹿兒島県阿久根市長が議会の開会要求を無視して専決処分を連発した問題を受け、総務省の地方財政検討会議が8月に開催された。その中で、斎藤誠東大教授は「議会側の」召集請求権を行使しても開会されない場合に限って、議長による召集を認めることが考えられる」と述べ、地方議会の召集権を特例的に議会側にも付与する検討を求めた。

首長と議会が適度な緊張感を持って、二元代表制を機能させていく事が大切と考える。これは、車の両輪に例えられ、あまり近づきすぎれば一輪車となって安定感を欠き、離れすぎれば脱輪してしまう。(五味記)

編集委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 五味 武雄 |
| 副委員長 | 長谷川 寛 |
| 委員 | 小池 利治 |
| 同 | 木下 貞彦 |
| 同 | 菊池 敏郎 |
| 同 | 小池 啓男 |